

# いにしへの讃岐



◀これひろ  
是広遺跡（さぬき市）のドローン空撮写真  
弥生時代のムラの姿が徐々に分かりつつ  
あります。

埋蔵文化財センターボランティア  
SNS始めました！

センターのイベントやボランティア活動の様子を発信していきます。  
是非、フォローをして香川の歴史に親しんで下さいね！

Instagram

SANUKIMAIBORA

X (旧 Twitter)

アカウント名  
讃岐まいぼら



▲是弘遺跡（さぬき市）で見つかった弥生時代の竪穴住居跡

## 香川の遺跡から～<sup>なかとひがし</sup>仲戸東遺跡～

仲戸東遺跡は東かがわ市川東にある遺跡で、平成 20・24 年度に発掘調査を行い、弥生時代から中世にかけての集落跡が見つかりました。とくに古墳時代後期（約 1,500 年前）には、33 基以上もの粘土採掘坑と 2 棟の掘立柱建物跡、廃棄された大量の埴輪が確認されました。

埴輪は古墳に据えるもので、集落では本来見つかりません。では、仲戸東遺跡で出土した埴輪にはどのような意味があるのでしょうか。

仲戸東遺跡では埴輪を焼いた窯そのものは見つかりませんでしたが、灰原（窯から掻き出した灰などが集積した層）の一部とみられるものが見つかっており、遺跡の周辺に窯があったと考えられます。

これらから、仲戸東遺跡では、粘土を採掘して埴輪を製作し、窯で埴輪を焼いたと考えられ、埴輪製作工房の一部が見つかったと考えられます。

また、仲戸東遺跡では通常の円筒埴輪だけでなく、船形・盾形・馬形埴輪といった形象埴輪や石見型埴輪も製作していました。とくに石見型埴輪は畿内を中心に分布する特殊な埴輪で、それまでの香川県内では製作されなかった埴輪です。それに加えて、仲戸東遺跡のものは吉備地域のものとよく似た特徴をもっています。そのため、仲戸東遺跡での埴輪生産には、畿内や吉備で埴輪を製作していた人物が関わっていたと考えられます。（谷本峻也）



▲ 仲戸東遺跡で見つかった粘土採掘坑  
大きい穴から小さい穴の順に掘られました。  
大きい穴は埴輪窯、小さい穴は埴輪の原料となる粘土を採取したと考えられます。  
そのため、埴輪窯を最初につくり、それから埴輪を製作したと考えられます。



▲ 仲戸東遺跡で見つかった船形埴輪  
準構造船で、当時の船を模しています



▲ 仲戸東遺跡で見つかった盾型埴輪



▲ 仲戸東遺跡で見つかった石見型埴輪



## 香川県埋蔵文化財センター

開館時間 9:00～17:00  
休館日 土日・祝日、12/29～1/3  
(イベント開催日は開館)  
所在地 〒762-0024  
香川県坂出市府中町南谷5001-4  
TEL 0877-48-2191



ホームページ



Instagram



X (エックス)





# 展示製作の舞台裏～展示ってどうつくってるの？～

香川県埋蔵文化財センターでは、多くの方々に発掘調査やその後の研究などで判明した香川県の歴史を伝えるために、展示事業を行っています。これまでに多くの展示を開催してきましたが、これらの展示が完成するまで、どんなことをしているのか、みなさん気になりませんか？

そこで、今回は香川県立図書館で実施した企画展「図書館の下に弥生時代！？～まいぶんセンターのおしごと紹介～」(会期：2025年12月9日～2026年1月5日)を題材に、普段見ることのできない展示の作業風景をお届けします。

## 【展示開催までの作業過程】

### ①実施計画の作成

展示で伝えたいことを考え、それぞれのパネルで何を説明するのか組み立てていきます。また、開催日から逆算して、作業のスケジュールを決めます。



### ②展示品を選ぶ

展示に使う土器や石器、写真を選びます。今回は県立図書館を建設する際に発掘調査を行った空港跡地遺跡のものから選びました。



### ③遺物を観察する

展示品のなかでも主役となるのは土器や石器などの遺物です。事前によく観察して、「ここが面白い!」と思ったことを伝えられるようにします。



### ④パネル原稿を書く

遺物を観察して感じたことや、調査をする中で新たに分かったことなどを書いていきます。専門的な内容を分かりやすく書くことが至難の作業です。



### ⑤パネルを編集する

完成したパネル原稿を見比べて、表現の統一をします。同時に、展示に使う写真や図などの大きさや画質を調整していきます。



### ⑥展示の設営

展示品と完成したパネルを展示会場で並べます。どういう風に並べたら、見に来た人たちによく伝わるのか、そんなことを考えながら、作業します。



完成！！



▲報告書を読みながら、展示に使えるような資料を選ぶ



▲弥生土器の甕を観察し、煮炊きの痕跡（スス）を見つける



▲原稿執筆中（周りには関連書籍の山が…）



▲見てほしいポイントを意識しながら土器を並べる



▲完成した展示



展示を見ていただき、ありがとうございます▶

## 【担当者へのQ & A】

どの作業が大変？



やっぱり文章を書く作業かな…。  
展示を見てくれる人がパッと理解できるように書くんだけど、うまくできないことが多いよね。  
そういう時は周りの人に読んでもらって、文章の表現を変えたりするんだ。

展示をする時、  
まず何を考えるの？



展示を通して何を伝えたいのかについて考えているかな。  
今回は埋文センターのお仕事紹介がテーマなので、発掘調査や整理作業などに注目し、その内容や目的について説明したよ。

展示品を並べる時、  
どんなことに気をつけるの？



見てほしいポイントをしっかり見せられるように並べるよ。あとはお客さんの目線の高さかな。ターゲットになる年齢層を意識して、少しでも見やすいように工夫しているよ。

今回の展示で  
面白かったものは？



弥生土器の甕だね！発掘調査ではよく見つかる「ありふれた」土器なんだけど、今回展示した甕の表面にススが付いてたんだ。これは料理する時に火にかけた証拠で、弥生時代の人たちがこの甕を使ってスープのような煮込み料理をしていたことが分かったんだ！  
こういう「どこにでもある」モノから当時の生活が分かるんだよ！

## 【おわりに】

さて、展示ができるまでのプロセスについて、皆さんお分かりいただけましたか？普段行っている展示の裏側には、さまざまな作業や苦勞、楽しみがあります。今回紹介した展示は終了しましたが、埋蔵文化財センターでは「運ばれた石器」展（会期：令和7年12月8日～令和8年2月27日）を開催しています。ほかにも、さまざまなテーマの展示を開催していきますので、ぜひ見に来てください！

(谷本 峻也)